
終わらない日々

相川 始

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

終わらない日々

【Nコード】

N2206A

【作者名】

相川 始

【あらすじ】

ごく普通の学園物の小説、別に普段と変わらない毎日だった筈だが、ある日修一の前に何かが起こる

……
昔の夢を見ていた……とても悲しい夢

それは……父親と母親を失った時の夢だ、あの時の俺は無力だった

……
……その後、俺はいとこの住む家に住ましてもらった（つまり居候）
事になった

そこから俺の新しい生活が始まったのかも知れない……

4月1日

……朝の静寂の中、声が聞こえる

「——そろそろ起きないと遅刻するよ？」

ここは一人部屋の筈だが……何故か、女の子の音がする

「修一？あと5分しか無いよ……」

修一は布団をめくりベッドから降りた

「……あれ？雪奈……おはよう」

修一は呑気にそう言っていると、カーテンを引いた

すると、日差しが修一達を照らす

「うわっ！眩しー!!」

そう言っているとカーテンを戻した

「早くしないと始業式始まっちゃうよ？」

「分かった、着替えたらすぐ行くから先に下りててくれ」

修一はそう言っていると雪奈は頷いて部屋を出た

「そうか春休みは昨日までだったんだな……ってよく考えたらここに
来たの昨日だった……」

修一は服を着替え終わると部屋を後にした

……
「おはようございます修一さん」

階段を下りると春子さんに会った

「おはようございます春子さん」

春子さんは俺の母親の妹で、雪奈の母親だ

「昨日はよく眠れましたか？」

春子さんは俺の方を見てそう訊いた

「ええ」

それから食卓に行った

(……しかし、この前までは家で飯と言えば大抵、菓子パンとかだつたなあ)

俺は少し昔の事を思い出していた

「――修一さん？」

ふと、名前を呼ばれ顔を上げる

「すいません……まだ寝ぼけてるのかな？」

春子さんは頬に手を当て微笑ながら言った

「ご飯冷めますよ？」

雪奈は皿などを片付けていた

俺は頷いて箸を動かした

「ごちそうさまでした」

そう言い皿を片付けようとしたら後は私がやっておきますと春子さんがそう言うので任せる事にした

玄関で待っていた雪奈と外へ出ようとする春子さんが来て行った

「いつてらっしゃい」

「いつてきます」

雪奈と声を合わせそう言いドアを開け外に出た

雪奈と歩いて2分位経ってふと気になった

「なあ雪奈、学校って何時からだっけ？」

雪奈は少し考え言った

「8時15分だよ」

修一は付け加えるように言った

「ちなみに今何時？」

修一の言葉を訊くと時計を見て言った
「8時だよ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2206a/>

終わらない日々

2011年2月3日02時15分発行